

「24時間営業中止に踏み切った経験から」

松本実敏 セブンイレブン東大阪南上小阪店オーナー

今回、過労死防止学会にて、私にこのような発表の場を与えてくださいましたこと、誠にありがとうございます。私は、セブンイレブン東大阪南上小阪店の松本実敏と申します。世間を大変お騒がせしている張本人でございます。誠に申し訳なく思っております。ただ多くの世論やマスコミの方々が、大騒ぎしてくださっているからこそ、今のコンビニの24時間営業という物が、どのようにしてできあがり、どれほど、オーナーさん又はその家族の人たちに、肉体的にも精神的にも負担をかけ、命まで脅かすような、過労死寸前の状態になっているのかが、世間の人たちにも理解されるようになってきたのだと思います。とりわけ、今までまったくと言っていいほど、加盟店側の言い分を聞こうとしなかった、大企業側の立場に立った国の役人たちにも、コンビニという業態がどれだけ過酷で逃げ場のない状態に置かれているのかということが、少しずつでもわかるようになってきたのだと思います。しかしながら、残念なことに、まだ本部の役員たちには、理解ができてないような気がします。

(1)「夜は閉めたい」と考えたわけ

さて、本題に入りますが、私がなぜ、セブンイレブンという大企業を相手に、たくさんの人たちの反対を押し切ってでも、時短に踏み切ったかということをお話したいと思います。

夜を閉めようと思いついたのはオープンしてから4年たった、いまから3年前くらいからでした。

毎年のように最低賃金は上がる、良くやってくれるスタッフに昇給をしてあげても最低賃金がすぐに追いついてくる。又上げる、又追い付く。この繰り返しでどんどん、深みにはまっておりました。夜の時給は普段の1.25倍、どんどん利益を圧迫してくるようになりました。深夜は、私の目も届かず、いい加減な仕事をするスタッフも増えてきました。今の時代の、問題になっているバイトテロも、ほとんどが深夜帯の出来事です。辞められたら即困ってしまう、そんな人に対しても注意ができない等、こちらの弱みに付け込んで、首になっても、どこでも働くところはあると思っての行動だと思っています。

そんな社会情勢にしてしまったのも、数を作れば本部は儲かるということだけを理由に、後先を考えずに店を作り続けてきたコンビニ業界の責任は大きいと思っております。その頃私の店でも、ちょっと注意したりすると急に来なくなったり、すぐに辞めてしまったりとかで、いつもシフトはひやひやものでした。

とくに深夜帯のシフトにはいつも泣かされていました。朝の8時から晩の8時まで働いて、やっと家に帰ったと思ったら、夜10時からのシフトが来ない。急ぎよ、夜の10時から次の朝の6時までのシフトに入ります。今度は、そのまま又、8時から夜の8時まで、その日の分の仕事があります。1日で22時間の仕事とか、何回もありました。

体はもうガタガタでした。しかし 24 時間開けておかないといけないので、仕方ありませんでした。次の日の夜のシフトが、来ることだけを祈りました。よくそのころ、過労で倒れなかったな一って今になったら思います。今では時短に踏み切ったおかげで、そんな心配はまったくなくなりました。閉めている間は、ぐっすり眠れるようになりました。そのころです。妻であったマネージャーとも、24 時間営業について、理にかなってないこと、「やっぱり、夜は人間は寝るもんだよね。24 時間営業をするようになってから、世の中が、おかしくなってきた様な気がするよね。人間我慢するっていうことも必要だよね」と言ってよく話し合ったものでした。

## (2) まさか「一揆」の張本人に

それに加えて、夜の売り上げに対して、かかる人件費が高すぎる、その人件費を本部は一切払わない。売り上げだけ吸い上げて人件費はすべてオーナー負担。こんな理に合わないことがまかり通るのかと、本部に対する不信感が膨らんでいきました。そのころから本部に、何回も夜を閉めたいことを伝えつづけてきましたが、一向に聞こうとはしませんでした。

そんな時に店の近くのお他チェーンの店がつぶれました。本部社員が来て、「オーナーさん、やりましたね。ひとつ潰しましたね」と言ってきました。「いやー、うちのせいやったらいややなー」て言うのと、「それでいいんです、もっと潰していきましょう」と言われました。そうじゃなくて、「みんなで一緒にやっとうとうとは思えんか。そんなことしてたら、何時か自分たちが潰されるわ」と言い合いになりました。さらに不信感が募りました。

決定的だったのは、去年の 2 月に福井の豪雪の自然災害の時に、スタッフが店に来れなくて、オーナーさんと奥さんだけで 50 時間店で働きつづけて、それでも店を閉めてはいけなと言われ、奥さんが救急車で運ばれても、店が閉められなくて、オーナーさんが病院にも行けなかった、というニュースが流されました。本当にこの企業の理不尽さが嫌になってきました。本部の者に、「そんなことをしていたら、何時かどこかで、百姓一揆が起きるわ」で警告したんですが、まさか自分が、その張本人になるとは、思ってもいませんでした。「あれには、いろいろ裏があるんですよ。こちらが悪くはないんです」と本部社員は言っていました。今、そのオーナーさんと交流があるので、やっぱりすべて本部側が悪く、役員が誤りに来たということを知りました。口先だけでその場をごまかす、未だによくやる本部の常套手段です。

まあ、それでもマネージャーもいたし、ぎりぎりでも何とか回っていたので、不満に思いつつも 24 時間営業を頑張つて続けてきました。しかし去年の 5 月に妻であるマネージャーが他界し、バイトスタッフの卒業とか、辞める人が相次ぎ、今年 1 月にはもうどうすることもできなくなり、このままでいくと、過労で倒れるか、夜を閉めるしか方法がなくなりました。もう自分が 22 時間、シフトに入っても回らなくなりました。相当迷った挙句、夜閉めることを決心しました。本部に言っても許してくれないので、強行しますと伝えました。そこから契約解除だの違約金だのと、世間を騒がすことになりましたが、かろうじて過労死だけは免れました。

## (3) 私ひとりの問題ではない

最初は自分の店を何とか回していくためと、過労で倒れないために、決心して始めたことでしたが、日本全国から励ましの手紙や電話を頂いて、24時間営業をすることにあって、もっとひどい状況を強いられている事実があること、オーナーさんやその家族の人たちが、命をも取られ、又、取られようとしていること、配送業者も休みがなく亡くなった方がいるということ、セブンの下請け業者で圧力が凄いこと、辞めるといって違約金を請求されること、コンビニ業界だけでなく他の業種の下請けの人が、上からかなりの圧力をかけられ仕事を強いられていることなどなど、たくさんの情報が私のもとに入ってくるようになりました。

もうこれは、私ひとりの問題ではない。又、コンビニ業界だけの問題でもない。日本経済の問題でもあるということを感じるようになりました。もう自分の店だけが、時短を許されるとか、契約解除はないとか、違約金は発生しないとか、そういう問題ではないと確信しました。そして、これからのコンビニの形態を変えれば、今後日本からコンビニがなくなってしまうということもあり得るのではないかと、考えるようになりました。今では、大きな世論や、マスコミの方たちが応援して下さることによって、公正取引委員会や経済産業省などが少しずつ動き出そうとしてくれています。

にもかかわらず、まだまだ本部の役員たちは、今の危機感をまったくといっていいほど、感じておりません。「我々は永遠に伸び続けることができる企業である」などと、社員に向けて発している文書を見ても想像ができます。岐路に立たされている今の現状にあっても、ただこのようなことを言い続けて、本部社員に圧力をかけ、騙し続ける今の役員たちが、大企業の力を持って、加盟店を脅し圧力をかけるだけで、自分たちの力では何の解決もできないということが分かってきました。

#### (4) 利益を呑み込む大企業

政界では、国のトップである大臣の信じられないような湿原の嵐。その任命責任がある首相は、自分に任命の責任があると言いながら、まったく責任を取ろうとはしない。働き方改革といっても、大企業の一部だけのもので、本当に改革のいるところには、まったく届いていない。自分たちの置かれている上は見えても、下はまったく見えない。いやもはや、大企業の改革にもなっていない。最低賃金を上げさえすれば経済はよくなると思っっている幼稚さ。政治界でも経済界でも、そのトップといわれるものは、口先だけ、表面だけを飾って、まったく中身のない意見をひょうひょうと述べるだけで、本当の意味での中身のある解決は、何もできない。それが今の日本のトップの姿であると、私は思います。本当に人材不足とは、コンビニのスタッフがいないということよりも、政界、経済界のトップに本当の人材が不足しているということではないでしょうか。

歴史を顧みても、下に理不尽を強いて力で抑え込み、自分たちだけが良い思いをしている、団体、国家、組織、企業が、未だかつて長続きをしている事例はたった一つもありません。必ず淘汰されていきます。歴史は私たちに真実を教えてくれていると思います。これからは、なになにファースト等と言って自分たちだけのことを考えているものはどんどん淘汰されていくでしょう。

話は変わりますが、「死海」とは、アラビア半島北西部にあり海拔-418mと地表ではもっとも低い場所であり、どんな生物も生きることができない湖です。死んだ海です。いろ

んな方面から川が流れ込み吸収するだけの湖です。そこから流れ出ることはありません。それによって、死んだ海ができあがるのです。自分だけが儲けてどんどんお金を吸い上げ、他に分け与えることを知らない企業も、政治も、まったくこれと同じです。死んだ企業です。死んだ政治です。

#### (5) 新時代のコンビニ

大自然は、われわれに、真理を教えてくれるような気がします。以上のような考えから、これからの社会は、自分たちのことだけではなく、他の人のことを考えて、社会に本当の意味で貢献できるようなコンビニ業態にならなければ、淘汰されてしまうと確信します。ある企業がロイヤリティの配分まで検討することを発表しましたが、自分たちのことだけでなく、加盟店の立場にも立って、口先だけのインフラではなく、本当の意味の社会への貢献を考えることができる、そういう企業が今後は、残っていける企業だと私は思っています。

そんな新しく改革された新時代のコンビニ。そのコンビニが、次のこの令和の時代に残るように、私は、声をあげ、疲弊しきった加盟店オーナーさんたちが、本部からの圧力から放たれ、24時間営業を無理強いされ、過労死レベルの労働を課されることなく、活力を取り戻し、本当の意味での社会に貢献できるような、新しいコンビニ業態をつくってほしいように。オーナーさんたちと手を取り合い、本部を説得し続け、今後も、頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。